

第1回 町田市スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時 2018年5月30日(水) 18:30~20:30

場 所 市庁舎 10階会議室

出席者

川崎 登志喜	委員(会長)	玉川大学教育学部 教授
宮崎 光次	委員	桜美林大学健康福祉学群長教授
永吉 英記	委員(職務代理)	国士舘大学体育学部准教授
山本 正実	委員	一般財団法人 町田市体育協会 理事長
岡田 栄	委員	町田市スポーツ推進委員
水野 洋子	委員	NPO法人スポーツ塾 J.VIC 代表
北川 達三	委員	社会福祉法人賛育会第二清風園 施設長
坂井 早苗	委員	市民委員
三村 徹	委員	市民委員
大川 武司	委員	南中学校校長

欠席者

佐藤 正志	委員	町田商工会議所 専務理事
-------	----	--------------

事務局

文化スポーツ振興部長	能條 敏明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課長	石田 一太郎
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	渋谷 晴久
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	伊奈 誠
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	清水 明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	喜多 和則
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	鈴木 朝子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	阿部 正宏
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	佐藤 理子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	武藤 玲美

傍聴者 1名

議事

1. 開会
2. 委員自己紹介・会長互選
3. 諮問
4. 議事
 - (1) 町田市のスポーツ推進の現状と課題について
 - (2) (仮称) 町田市スポーツ推進計画 19-28 について
5. 事務局
6. 閉会

配布資料

- ・ 次第
- ・ 諮問書
- ・ 町田市のスポーツ推進の現状と課題について
- ・ (仮称) 町田市スポーツ推進計画 19-28 策定全体スケジュール
- ・ 町田市スポーツ推進条例 ……参考資料 1
- ・ 町田市スポーツ推進計画概要版 ……参考資料 2
 - 町田市スポーツ推進計画 2017 年度進捗状況
- ・ 町田市スポーツ推進審議会条例 ……参考資料 3
- ・ 町田市スポーツ推進審議会委員名簿 ……参考資料 4
- ・ 2017 年度スポーツに関する市民意識調査アンケート結果 ……参考資料 5
 - 小学校 5 年生、中学校 2 年生を対象としたアンケート結果

議事要旨

1. 開会

事務局からあいさつが行われた。

2. 委員自己紹介・会長互選

出席した委員より自己紹介が行われた。

委員の推薦により、川崎登志喜委員が会長となった。

町田市スポーツ推進審議会条例に基づく会長の指名により、永吉英記委員が職務代理となった。

3. 諮問

諮問書に基づき、審議会への諮問内容について説明が行われた。

4. 議事

- (1) 町田市のスポーツ推進の現状と課題について

事務局が資料「町田市のスポーツ推進の現状と課題について」を基に説明を行った。

川崎委員 東京都は計画の達成指標の 1 つにスポーツが嫌いと回答する中学 2 年生の割合を男女別に掲げている。町田市では同様の指標を掲げることはできるのか。

事務局 アンケートでは聞いている。集計結果を改めて提示する。

山本委員 スポーツ推進委員の数が多摩 26 市の他市と比べて少ないとのことだが、市の人口に対する委員数の規定はあるのか。

岡田委員 現在町田市では 15 名の委員がいる。

事務局 規定はない。相模原市ではスポーツ推進委員の定数は 253 名となっている。

(2) (仮称) 町田市スポーツ推進計画 19-28 について

川崎委員 計画を策定するにあたって、「スポーツ」が指し示す範囲について、審議会として共通認識をもつ必要があると考えている。運動、体育、スポーツという用語について各委員の考えを伺いたい。

山本委員 日本体育協会は 2018 年 4 月 1 日に「日本スポーツ協会」に改称したが、町田市は東京都と同様に、現時点では町田市体育協会となっている。

宮崎委員 町田市スポーツ推進計画においては「**身体を動かす**」ということが**大事**なのではないか。また、健康づくりなどの視点からすると、昨今話題の e スポーツは、主旨が異なると考えている。

川崎委員 障がい者スポーツの観点から意見はあるか。

水野委員 健常者でも障がい者でも、競技スポーツは記録を競うことは前提となっている。しかし、**ボッチャなど障がいの有無や年齢に関わらず、身体を動かして楽しむ**スポーツもある。記録を求めるだけでなく、楽しむことがこの計画におけるスポーツという用語の中では大事なのではないか。

三村委員 スポーツの目的は世代ごとにも異なると思う。外出するきっかけとなったり、仲間ができたり、健康づくりにつながったりするには、**楽しいということが原点**にあると思う。

川崎委員 学校では、部活動の推進についてもスポーツの範疇ではないか。

大川委員 中学校では、ラジオ体操や集団行動を通して**規律を学ぶことや、基礎体力の向上**等を目的として体育、部活動を推進している。顧問の考え方によって競技志向の部とそうでない部がある。しかし、地域でのスポーツ活動も盛んで、町田市内の中学生の多くはなんらかのかたちでスポーツに関わっているのではないかと思う。

川崎委員 レクリエーションとしてのスポーツはどうか。

岡田委員 スポーツ・レクリエーションというものがあるが、人と関わりを持ち楽しむことが重要視されている。また、例えば介護予防においては、いわゆる脳トレのような、仲間と身体を動かしながら少し頭も使うこともスポーツ・レクリエーションの中に取り入れられている。指導者育成などの課題はあるが、今後も**誰でも気軽に取り組める**スポーツとして位置付けられていくのではないか。

永吉委員 **スポーツ基本法の前文**において、スポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割の重要性が示されている。これも考え方の一つ基準になるのではないか。

川崎委員 前回の計画策定時は、「意思を持って身体を動かす」という視点でスポーツを広く捉えたが、近年さらに広がりを見せている。地域スポーツという考え方で、地域課題の解決に資するものといった視点でより広くスポーツが捉えられている。現行計画では「スポーツで人とまちが一つになる」という将来の姿が記載されている。町田らしい計画としていくためにも、この点についてもあらためて意見を伺いたい。

- 永吉委員 「計画推進における課題(案)」にもあるが、事業等における各主体間で情報共有を十分に行うことが重要だと考えている。先ほど議論した「スポーツ」が指し示す範囲についても、まち全体で共有していくことが大事ではないか。個別具体の話となるが、様々行われているスポーツのイベントも参加者募集に苦戦したり、参加者が固定化したりという話を聞く。まちが一つになるためには、そういったイベントの日程調整なども、必要かもしれない。
- 川崎委員 イベントの開催もうまく調整して、まち全体でにぎわいづくりにつなげていけるとよい。秋の週末など、イベントの開催日が重なってしまうことはどうしてもあると思うが、情報を共有しながらまち全体で盛り上げていくという視点があってもよいかもしれない。
- 大川委員 ホームタウンチームやスポーツ強豪校である大学、高校、民間のジムなど、町田にはスポーツに関連する資源が多くあると感じている。まちが一つになるという視点で情報を共有するとともに、それらが連携していく方策を考えていけるとよいのではないかと。また、ホームタウンチームは小中学校の校長会にイベント開催等でPRに来ている。学校でも様々な取組が行われているが、意外とこういった取組が市民に伝わっていないと感じている。
- 北川委員 FC町田ゼルビアの選手が高齢者施設を訪問してくれたことがあった。職員が子どもにも声をかけたことで、多世代が交流するよい機会となった。スポーツにはこういった多世代をつなぐ魅力もあると思う。
- 坂井委員 スポーツを市民一人ひとりが楽しむとともに、仲間をつくりスポーツを続けていくことが大事だと感じている。ニュースポーツなど新たなスポーツの楽しみ方も出てきており、スポーツで多くの人が1つになる機会を大事にしていきたい。そのために、指導者や団体を支援していくことも重要になると考えている。
- 山本委員 子どもや高齢者には様々な取組が進められているが、働き盛り世代など、スポーツが身近でない人へのアプローチも考えていけるとよい。スポーツ施設整備構想提言書も参考にして、する・みる・ささえる視点でスポーツを推進して「スポーツで人とまちが一つになる」ということを考えていきたい。
- 川崎委員 スポーツをきっかけにして、人とのつながりをつくっていけるとよい。
- 岡田委員 野津田公園は町田市内のスポーツの拠点になると思う。こういった人が集まる場所において、スポーツを楽しめる環境整備を充実させていくことが重要ではないか。スポーツに関心の低い人にアプローチして、する・みる・ささえる視点で「楽しい」ということを伝えていけるとよい。
- 宮崎委員 大学野球部の練習見学に高齢者が訪れ、その後徐々に観戦希望者が増えた。こういった、みるスポーツをきっかけにして人が集まるということは大事だと感じている。将来の姿についても同様に、地域で行われるスポーツを見に行くことで様々な交流が生まれ、その時間・空間を楽しめることが、「人とまちが1つになる」ことにつながるのではないかと。
- 川崎委員 こういった将来の姿の実現をどのように評価していくかということも考えていきたい。
- 永吉委員 週1回スポーツ実施率は一つの基準になるのではないかと。都や国も参考に、実施率の目標値を設定できるとよい。目標については、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されること

から、2020年までを基準とした指標もあってもよいのではないか。

東京都は「東京都子どもを受動喫煙から守る条例」を今年の4月1日に施行した。健康づくりに関連する指標も参考にできるとよいかもしれない。

岡田委員 先ほどスポーツ推進委員の数について意見があったが、スポーツ推進委員の数を増やすことも一つの目標にしてもよいのではないか。今後のスポーツ推進において、地域の核になれる人は重要だと感じている。

坂井委員 これまでスポーツ実施率が向上してきた要因を分析できるとよい。その結果をもとに、今後の方針を考えていくことも重要ではないか。

大川委員 学校では運動やスポーツが嫌いな生徒を減らすことも重要だと考えている。

川崎委員 東京都の計画では、中学生の男女それぞれで嫌いという主旨の回答をする生徒の割合を達成指標に掲げているので参考にできるとよい。

町田市の中学生の体力テストの結果は全国や都と比較してどうなのか。

事務局 全国や都と比較すると、よいという状況ではないと認識している。

三村委員 働き盛り世代・子育て世代などスポーツができていない若い世代にスポーツのきっかけをつくるには、スポーツ施設の利用を促進する施策も重要になるのではないか。また、親子で参加できるイベント等も一層充実していけるとよい。

北川委員 高齢者にとってスポーツを「する」ことは健康状況等により、誰でもすぐにできる状況ではない。しかし、「みる」ことであれば、手軽に始められるし、仲間づくりのきっかけにもなる。高齢者の「みる」スポーツについて、指標を掲げてよいのではないか。

水野委員 障がい者スポーツは、競技の認知度不足とそれに伴うささえる人材不足が課題となっている。2020年を契機ととらえ、競技の認知度やボランティアの数を指標に掲げてよいのではないか。

川崎委員 2020年に向けた指標を考えていくことも重要だと感じた。

宮崎委員 する・みる・ささえる視点から、成果を図る指標を検討できるとよい。具体的な方法は現時点でアイデアがないが、情報がどの程度リーチしたかを図る指標も検討できるとよい。

川崎委員 次回以降、基本目標ごとに方向性を議論していきたい。

5. 事務局から

次回審議会は7月24日（火）の開催を予定している。

6. 閉会

以上